

博物館だより

1991.3
第5号

大津市歴史博物館

春の企画展

「火の贈りもの」を開催

大津市歴史博物館では、平成三年四月二十七日から、「春の企画展 火の贈りもの―国づくりを支えた古代人の技術―」を開催します。本展は、古代において、人々が獲得した技術とその製品及び生産体制を示す資料を全国的な視点からながめた展示をします。どうぞ、ご期待ください。



重要文化財・銅鐸鑄型(茨木市教育委員会蔵)

近江国には、古代から官営的色彩の濃い製鉄遺跡・野路小野山遺跡、大津京と深いかわりがあるとみられ、大量の須恵器を焼いた窯跡・山ノ神遺跡をはじめ、数多くの生産遺跡が存在しています。

また、最近では、全国各地において、多くの調査が実施されており、操業年代がこれまで考えられていたより大幅に古くまで遡る製鉄遺跡、奈良・東大寺の大仏鑄造に係わる遺跡などが発見されたり、多くの珍しい遺物が出土したりしています。

これらは、現代の我々がみても、かなり優れた技術を用いており、その製品も、想像以上に精巧なものが多く含まれています。

本展は、生産に関係した資料の中から特に鉄・土・銅といった原料を展示テーマの大きな柱として、古代(弥生時代から平安時代―一部鎌倉時代を含む)において、これらに係わる生産の技術がどのようなものであったのか、どのような製品が生み出され、それが当時の社会に対してどのような影響を与えていったのか、ということ、大津市出土の多彩陶器や大津京に関係した瓦などの考古資料をはじめとして、全国的にも珍しい銅印の鑄型など総数約三五〇点の資料を展示して古代という時代を見てみようというものです。陳列する資料の中には、重要文化財四件が含まれています。

会期は、平成三年四月二十七日から五月二十六日まで。ただし、四月三十日、五月七日、十三日、二十日は休館いたします。

また、会期中に当館講堂において展覧会に関係した講演会を開催する予定をしております。

企画展の概要

企画展は、次の三部構成になります。各部の概要と主な展示資料は、次のとおりです。

(1) 鉄

鉄は、それが誕生して以来、各時代を通して生産あるいは、消費の基礎となっています。

この鉄は、自然に金属鉄として存在していることは稀であり、大部分は鉄酸化物である鉄鉱石や砂鉄として存在しています。鉄の生産（製鉄）は、原料を燃料と共に燃やし酸素を取り除くことであり、このようにして出来た鉄の地金から各種の製品が作られました。

（主な展示資料）

・重要文化財 新開古墳出土 眉庇付冑・衝角付冑
（滋賀県）



鬼瓦(財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター蔵)

・宇和奈辺陵墓参考地陪塚高塚（大和6号墳）出土
鉄錠
（宮内庁）

(2) 土

可塑性に富む粘土は、容易に製品の形を作ることができます。五〇〇度以上に熱すると、化学変化をおこし硬く焼け締まり、再び水にさらしても、もとはに戻りません。

この土の性質を利用して、土器や瓦などが数多く焼かれました。

（主な展示資料）

・重要美術品 南滋賀廃寺出土 三彩陶器
（近江神宮蔵）

・平安宮出土 緑釉瓦

（財団法人京都市埋蔵文化財研究所蔵）

(3) 銅

原料を燃やし、金属を取り出すという技術は、人間が獲得した技術の中でも上位に位置づけられるものですが、銅は、鉄よりも古くから利用されていたといわれます。これは、銅に錫を加えて青銅にしたことで、硬くて鋭い利器が作られるようになったからです。

この銅製品には、鉄のように小さなものから奈良の大仏のように巨大なものまであります。

（主な展示資料）

・重要文化財 大岩山出土 突線装束袴文銅鐔
（滋賀県）

・平城宮出土 和銅開珎造品

（奈良国立文化財研究所）

ベルリン国立美術館展終わる

平成三年一月六日から二月十一日まで、大津市歴史博物館の第一企画展として、朝日新聞社・ベルリン国立美術館との共催による「ベルリン国立美術館展・古代芸術の顔」を開催しました。会期中、ベルリン国立美術館から、学芸員のイルムガルト・クリーゼライトさんが来館され、展示指導・作品管理にあたられました。

一般公開に先立つ一月五日には、ベルリン国立美術





館エジプト館のカール・ブリーゼ館長をはじめ、来賓・関係者約百五十名を迎えて、開場式を挙げる。主催者を代表して、山田豊三郎市長が、「大津市も歴史において日本有数の地だが、はるかに歴史の古い、西洋古代美術の実物を間近に見ると、圧倒される。」と、広く世界史の舞台にも目を向ける機会となる展覧会が、この新設の歴史博物館で開催されることを喜ぶ」とあいさつしました。作品鑑賞では、見終わったみなさんの多くが、西洋美術の奥深さに魅了されていました。

本展は、古代地中海文明の遺産のなから、人間の顔を表現した彫刻・絵画、六十一一点（紀元前二六〇〇年）紀元六〇〇年の作品を集めたもので、人間表現の歴史をたどり、西洋美術の源流をさぐるうとしたものでした。

展覧会には、大津・滋賀県ばかりでなく、京都・大阪・神戸など広く近畿各地からの観客を迎えることができ、また若い観客や親子づれなどが目立ちました。会期中の観覧者は一万四千七百二十二人でした。

収藏品紹介④

山王垂迹曼荼羅図

絹本着色 縦七九・〇センチ 横四八・七センチ

南北朝時代

全国に分布する日吉神社の本来本元にあたるのが大津市坂本の日吉大社です。もともと日吉の神は日枝（ヒエノヒ）の山にすみたまう地主神でしたが、最澄が比叡山に開いた延暦寺の発展とともに、天台宗の護り神として崇拜が高まるにつれ、多くの神々を末社として取りこんでゆきます。中世以降には実に百八社をその傘下に組織化したといわれますが、そのなかで中心的な存在であったのが、山王上七社とよばれた七つの神々でした。

さて、日吉の神々を描いた宗教絵画に山王曼荼羅があります。ここに紹介する本館蔵品はいわゆる垂迹曼荼羅形式をとっています。明治時代以前のわが国には、神と仏とは本来一体のものとする思想が根強くありました。この場合、仏が本来の姿で神が仮の姿とされましたので、仏の姿を本地形、神の姿を垂迹形とよびます。したがって同じ山王曼荼羅でも、神々を仏の姿で表しているものは本地仏曼荼羅形式、神の姿で表現したものは垂迹曼荼羅形式ということになるわけです。

画面中央のひとときわ大きな僧形像は日吉の神々のなかで筆頭格の西本宮大宮です。その左右が東本宮二宮と宇佐宮聖真子であ



り、これら三体にその上下各二体の神々を合わせ、計七体が上七社に該当します。一番下の三体についてははっきりしないところもありますが、真中の童子形は若宮と考えられますし、向って左には赤い顔をした猿が束帯姿で座っています。奈良の春日大社では鹿が神の使いであり、日吉社では猿がそうです。猿に似ていたという豊臣秀吉の幼名が日吉丸であったと伝えられるのも、このことにちなんでいるのでしよう。

このような山王曼荼羅は、延暦寺をはじめとする天台宗寺院の法会や儀式に際して、これを掛けて神々を勧請し、その道場の守護を祈ったのです。いまでも下阪本の東南寺でとりおこなわれる戸津説法などにおいても、かつて山王曼荼羅を道場に掛けて法会が進められたことが記録にうかがえます。また日吉社を支えた人びとによる山王講に際しても、これを前にして礼拝をおこなったものでした。

本館で所蔵する垂迹曼荼羅は小幅ながら、諸尊の表情の緻密な描法や賦彩法の丁寧さが賞される佳品といえます。

四月・五月の土曜講座

歴史博物館の「土曜講座」の四月・五月の日程は、次のとおりです。

◇仏像の見方(二回連続)

(日時) 四月十三日、二十日 午後二時～三時半

(定員) 八〇名。スライドなどで、仏像の見方を紹介。講師は、本館学芸員。

◇古文書で読む大津の歴史(三回連続)

(日時) 四月二十七日、五月十八日、二十五日。

午後二時～三時半

(定員) 三〇名。常設展示の古文書を解説。講師は本館学芸員。

●歴史博物館への寄贈

受講ご希望の方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、大津市歴史博物館までお申度ください。申込の切は三月三十一日(多数の場合は抽選)。

●歴史博物館への寄贈

このほど大津市歴史博物館へ次の方々から寄贈をうけました。厚くお礼申しあげます。

今井清さん 明治期の「滋賀県下観光案内」ほか歴史資料七〇点。

今井清右衛門さん(高月町) 嘉永元年・同六年の米相場書二冊。

ヴェルツブルグ市(ドイツ連邦共和国) 独文「近江八景案内書」。

松田健治郎さん 増嶋一口、慶応三年十一月のお札ぶり記録一冊。

高橋清一郎さん 「歴史地理近江号」(明治四十五年六月)ほか書籍四冊。

1月5日 ベルリン国立美術館展「古代芸術の顔」開場式を開催、同館エジプト館長カール・プリーゼ氏来館
6日 同展の一般公開
9日 堺市博物館資料調査
10日 市内社寺の美術工芸(彫刻)調査はしめる。
元大津市高等女学校同窓会から石灯籠一基の寄贈をうける
11日 午前〇時開館以来観覧者数三万人目を迎え、森岡恭子さん(大津市下阪本)に山田市長から花束、記念品を贈呈
13日 水口町立歴史民俗資料館資料調査
16日 第二回大津市歴史博物館協議会を開催、京都府埋蔵文化財研究所資料調査
18日 民生児童委員婦人会(百五十名)来館
19日 江馬すま子さん宅(向日市)訪問
23日 通信総合博物館・国立公文書館各資料調査
ベルリン展記念講演会(講師中山典夫筑波大学助教授)開く。奈良国立文化財研究所資料調査
31日 「大津事件判決書写」最高裁判所から寄贈をうける。片岡千佳雄家(神戸市)資料調査
2月2日 大阪府立弥生文化博物館開館記念式に参列。
京都大学付属図書館資料調査
5日 栗東歴史民俗博物館・銅鐸博物館資料調査
7日 元文明北京大学教授来館。駒沢大学・宮内庁資料調査。野洲町・中主町各教育委員来館
8日 逢坂芳雄大津地方裁判所長ら一行来館

博物館日記抄

平成3年1月
平成3年2月

11日 ベルリン展閉幕、会期中の観覧者一万四千七百二十二人

13日 西宮市教育委員会一行来館

14日 「大津事件判決書写」を展示公開、NHK TV取材。神戸市立博物館資料調査。市教頭会来館

15日 博物館収蔵品収集審査会を開く

16日 第一回土曜講座(スライドでみる大津の遺跡①)を開講(受講生九八人)。水口文化芸術会館資料調査。市教委書初め展開かれる

19日 長石肇鳥取県立博物館長・野地恒有同館学芸員来館。県議会交通観光特別委員来館

20日 九州歴史博物館資料調査

21日 滋賀県ニューメディア協議会(講堂)開催される

22日 馬の博物館資料調査、観覧者数延べ五万人を数える。第三十回滋賀県書初め展覧会開催される

23日 第二回土曜講座(古文書で読む大津の歴史①)を開講(定員三十人)。芝田国富夫妻から大津事件関係の新聞「近江新報」の寄贈をうける

26日 池田茂徳法務省刑事局参事官・松田昇大津地方検察庁検事正・山川雄巳関西西大学法学研究所長ら一行来館

27日 宇佐八幡神社(鳴門市)・金刀比羅宮(琴平町)各資料調査

博物館だより 第5号

発行日 平成三年三月二十日
編集 大津市歴史博物館
発行所 大津市御陵町二二二

大津市歴史博物館
電話(〇七五)二二二〇〇〇